兵庫県立加古川医療センター
柿本 久美子様

この度は、第 24 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会に
演題をご登録頂き、誠にありがとうございます。

ご応募頂きました下記演題は採択されましたので、
以下の通りご連絡させて頂きます。

登録番号：4
演題名　：地域連携に基づいた行政との合同企画、ホスピスボランティア『ガーベラの会』加古川支部の活動報告
発表カテゴリー：口演１０　J　人材育成
発表日時：2017 年 2 月 5 日（日）　午前

第 24 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会
大会長　二ノ坂　保喜

抄録

地域連携に基づいた行政との合同企画、ホスピスボランティア『ガーベラの会』加古川支部の活動報告

〇柿本久美子、高田大輔、十倉久美子、廣田雅子、橋本みさ子、水田美穂

【はじめに】地域包括ケアシステムにおいて在宅ケアの場でもボランティアの活動が期待されている。加古川高砂緩和ケア連携研究会では加古川市社会福祉協議会と合同で加古川市ホスピスボランティア研修会（以下研修会）を開催し、平成２８年３月から約２０名がホスピスボランティア活動を開始している。会はホスピスボランティア『ガーベラの会』加古川支部（以下『ガーベラの会』）と命名し、毎月のフォローアップ研修で、活動状況や困っている点などの意見交換を行いながら、充実した活動へ繋げている。今回は『ガーベラの会』の活動を報告する。

【研修会の実際】

・ボランティア推進委員会：H26 年 12 月～計 6 回

・研修会：H27 年 8～10 月　　計 8 回

・研修内容：1996 年に西宮市の（財）国際交流協会が翻訳・発行した『スポーケン・ホスピス・ボランティア・マニュアル』を基にして作成されたホスピス・ボランティア研修マニュアルを参考テキストとして配布し、８回の研修はそのテキストを参考に各講師がアレンジした内容で講義した。研修テーマは、①オリエンテーション②ホスピスへようこそ！！③ホスピス緩和ケアの基礎知識（１）④ホスピス緩和ケアの基礎知識（２）⑤ホスピス緩和ケアで配慮すること⑥ホスピスボランティアを始める前に⑦悲しみにくれる人に寄り添う⑧ホスピスボランティアの役割。希望者は２時間の見学実習を実施。

・講師：加古川緩和ケア連携研究会（医師、緩和ケア認定看護師、訪問看護師、地域連携室の看護師など）加古川市社会福祉協議会職員

・受講者：50 名

・フォローアップ研修：H28 年 3 月～1 回/月　内容は意見交換、フィードバック、講演など。

【ボランティアの活動場所と活動の実際】

１、有床診療所：イベントの準備、傾聴など。

２、緩和ケア病棟：おしぼりやお茶配り、傾聴、イベントの準備、庭園の手入れなど。

３、在宅：訪問看護師と同伴し、患者・家族の思いの傾聴など。

４、有料診療所、緩和ケア病棟、在宅と横断的に活動しているボランティアもいる。

【フォローアップ研修での意見交換】

①活動を通しての関わりの中で、巻き込まれて辛くなった体験を語られ、巻き込まれない関わり方を説明した。

②音楽会で懐かしい楽曲を口ずさんでいる患者の思い出話を傾聴しており、その関わりを保証した。

③在宅では患者の前では話しにくいことを、看護師がケア中に別の場所で傾聴しており、家族ケアに繋がっていた。

④地域に戻って活動できるよう、いろいろと経験を積み学んでいきたいと前向きな意見があった。

【まとめ】第１回目の研修会で、ホスピスボランティアとしての活動と活動者へのフォローアップの体制が整った。第２回目の研修会では、１回目の研修生が先輩となり運営できるよう、また、ボランティアが地域の場に置いても活動できるよう企画側も協同してサポートしたい。